

# 高コレステロール血症を治療した犬2例

徳田雅史<sup>1)</sup> 立野祐子<sup>1)</sup> 加山英<sup>1)</sup> 山田茂夫<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>山田動物病院

## はじめに

- ・高脂血症と肝胆道系疾患との関連は不明確
- ・胆嚢破裂や胆管肝炎の治療後も持続する高脂血症の明確な治療方針は少ない

肝胆道系疾患の治療管理、再発予防を目的に高脂血症を治療したので、その概要を報告する

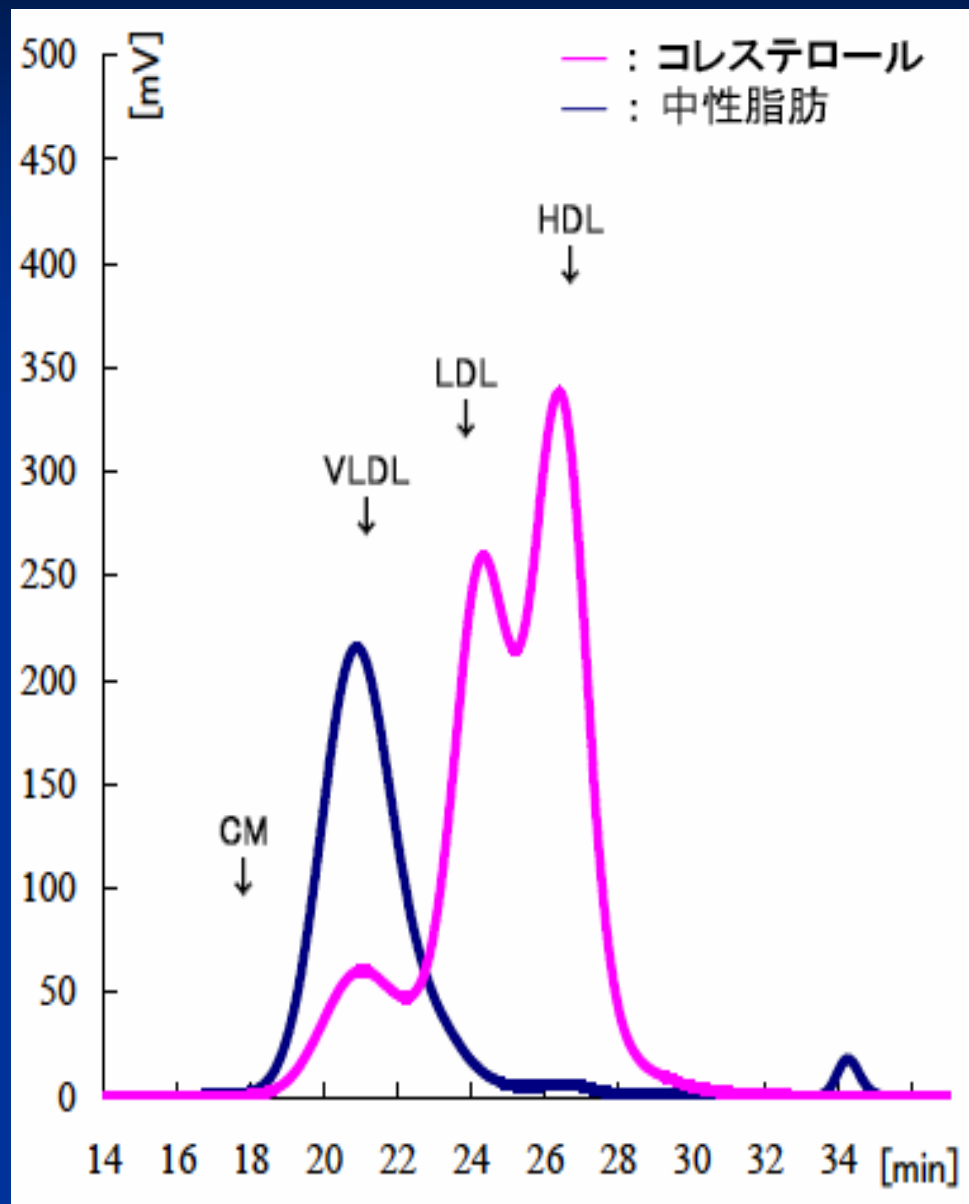
## 症例1

- ・ポメラニアン ♀ (避妊済) 10歳5ヶ月 体重4.5kg (BCS 3)
- ・高コレステロール血症 (高TCho血症) が1年前より認められた  
(TCho : 369mg/dℓ )
- ・その後、胆嚢粘液嚢腫、胆管肝炎を発症 (第1病日)
- ・胆嚢破裂を起こし、胆嚢摘出
- ・一般的な肝炎治療を行うが、高TCho血症が持続  
(第106病日 : TCho > 450mg/dℓ)

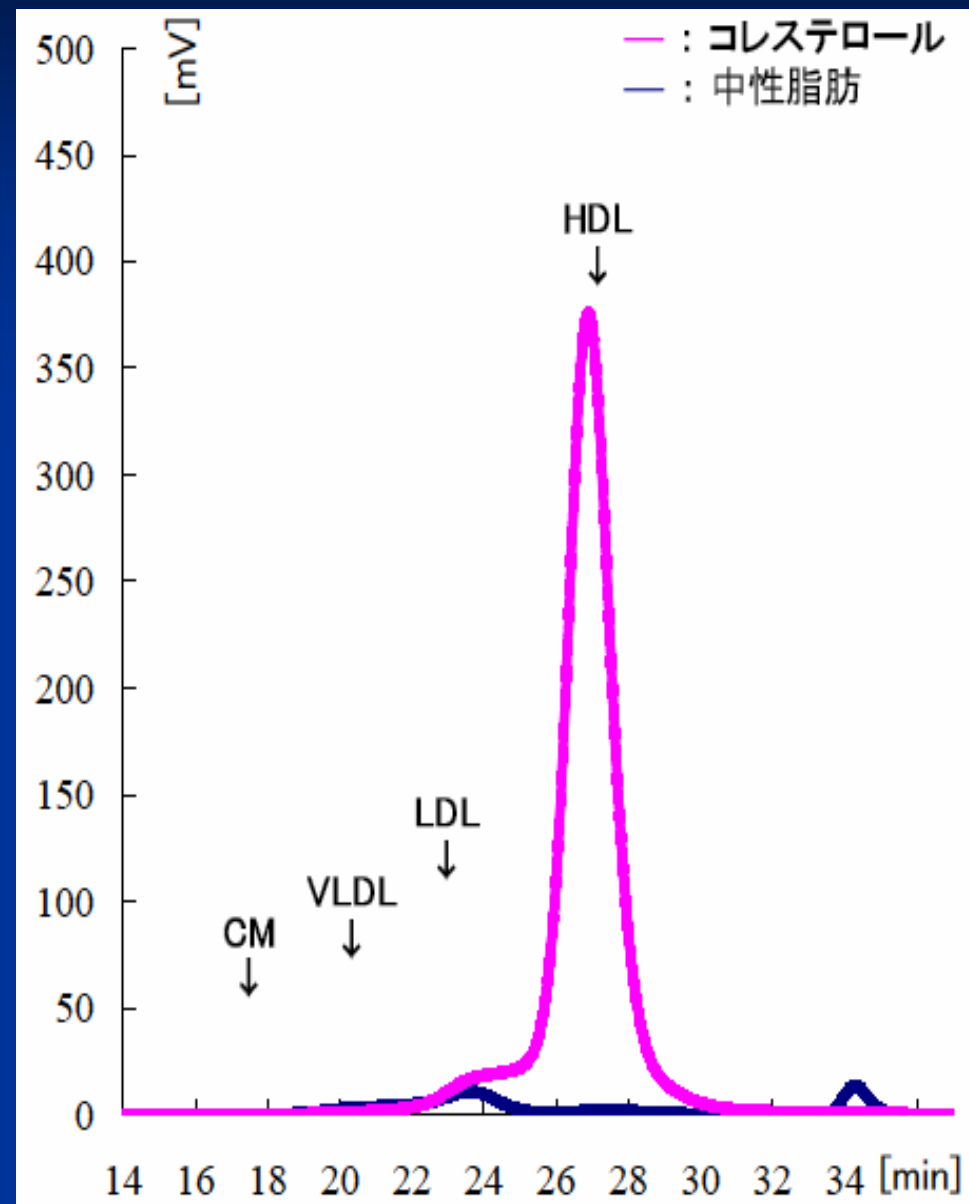
## 治療目的

胆嚢摘出後の治療管理を目的として高TCho血症の治療

# 症例1 血清脂質解析結果

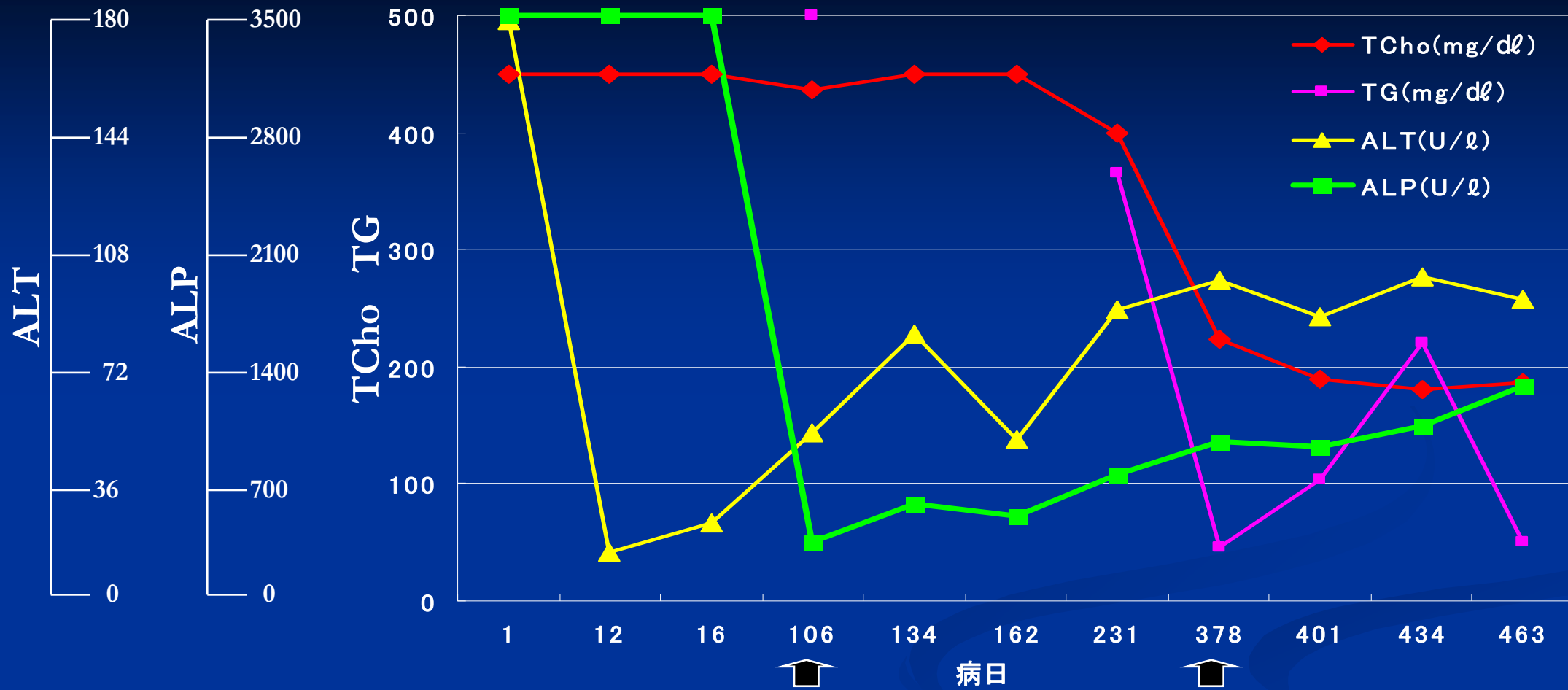


症例1



標準波形

# 症例1: 高コレステロール血症に対する治療およびその結果



プラバスタチン (mg/kg SID)



エラスターゼ (U/head BID)



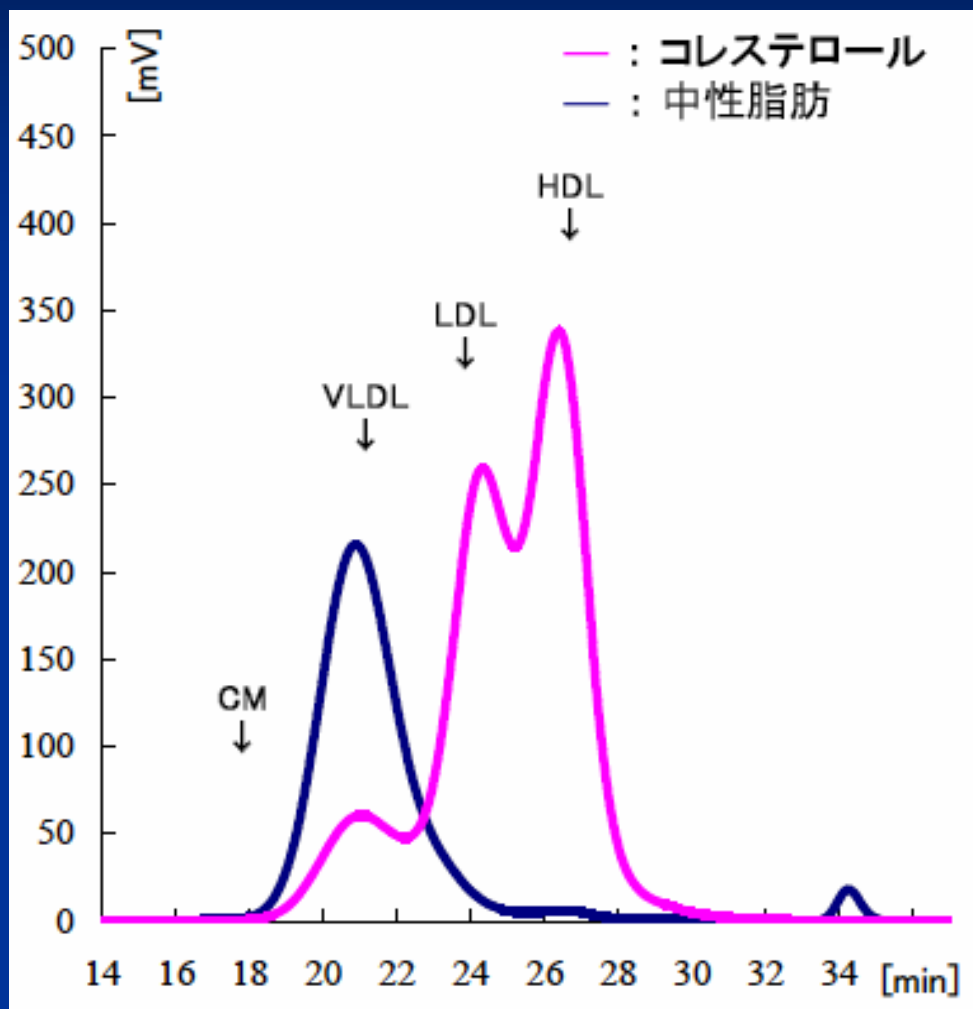
ウルソ酸 (mg/kg BID)



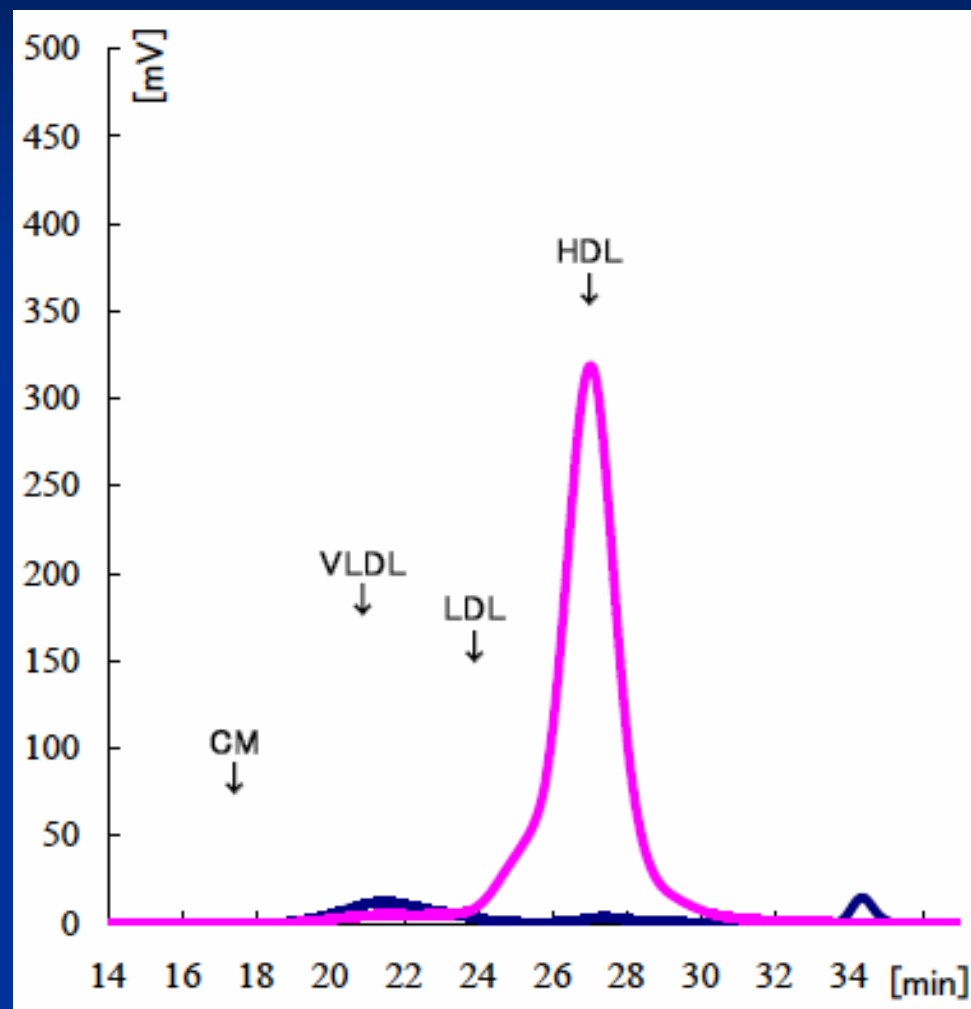
w/d



# 高コレステロール血症治療前後の血清脂質解析結果の比較



第106病日



第378病日

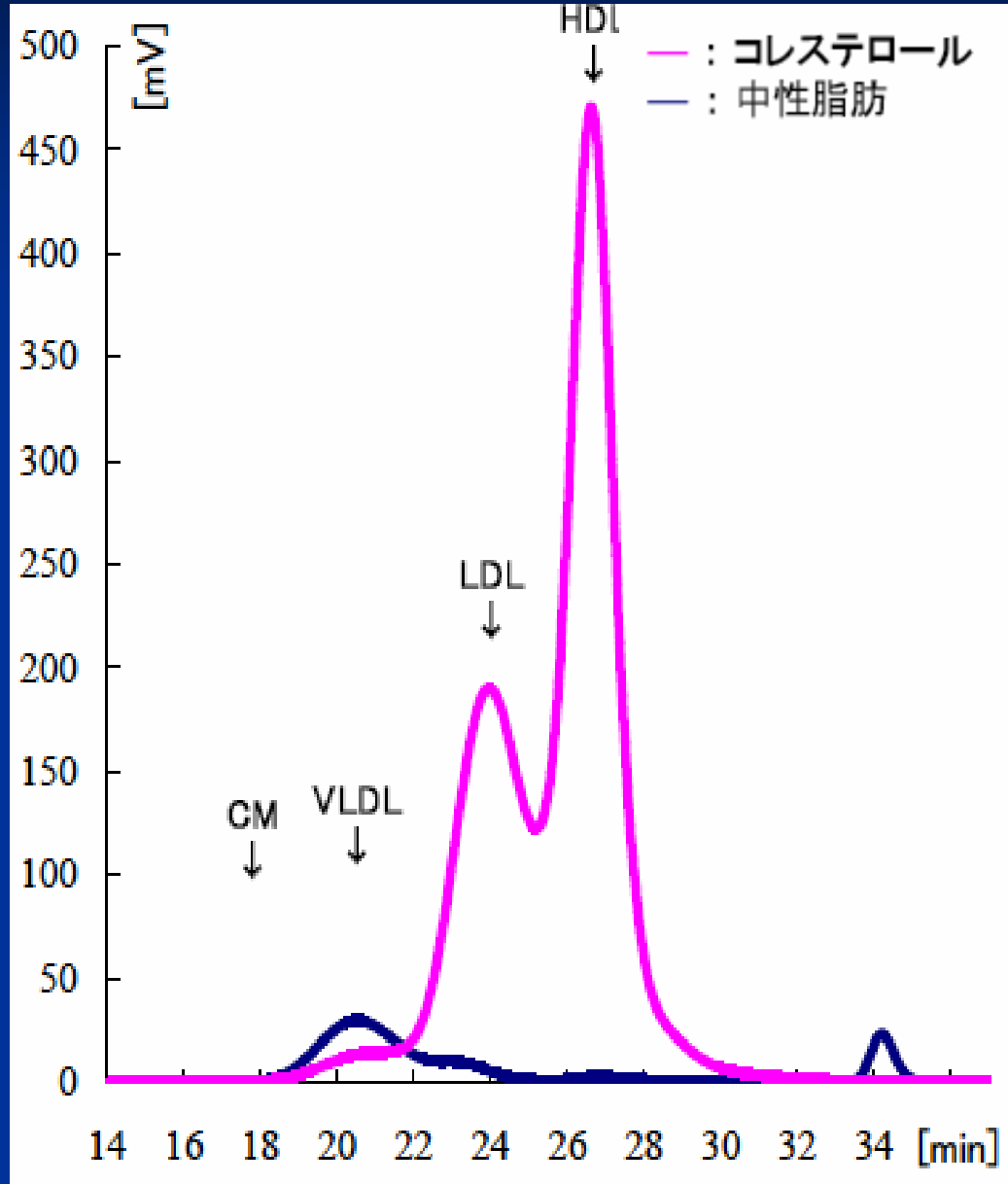
## 症例2

- ・トイプードル ♀ (避妊済) 12歳8ヶ月 体重4.0kg (BCS 3)
- ・高TCho血症が半年前から認められた (TCho: 375mg/dℓ)
- ・その後、胆管肝炎を発症し (第1病日)、一般的な肝炎治療を実施 (TCho > 450mg/dℓ)
- ・内服の休薬に伴い、胆管肝炎再発 (TCho > 450mg/dℓ)
- ・高TCho血症は肝炎治療には反応なし (第111病日: TCho > 450mg/dℓ)

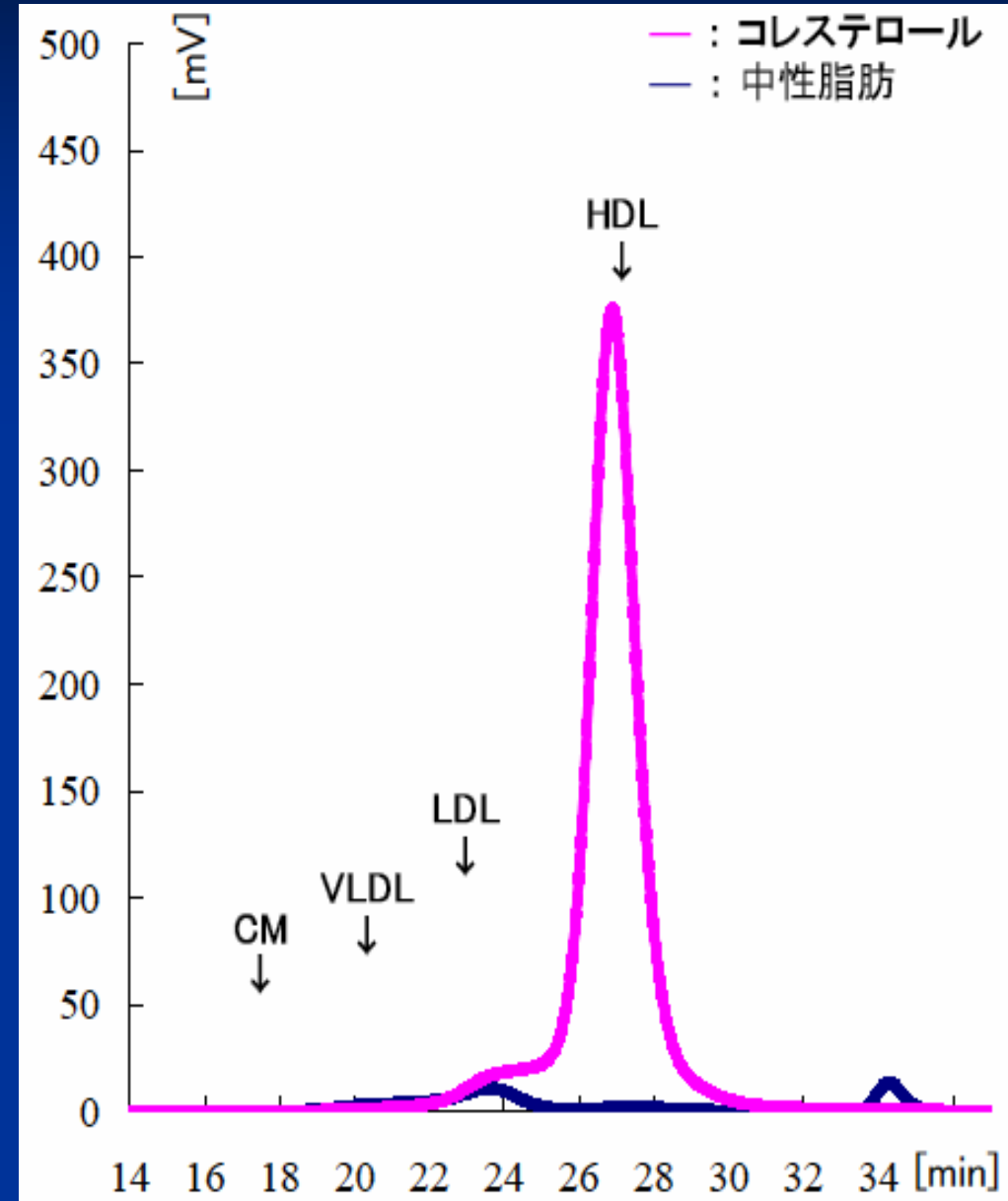
## 治療目的

胆管肝炎の再発予防を目的として高TCho血症を治療

# 症例2 血清脂質解析結果



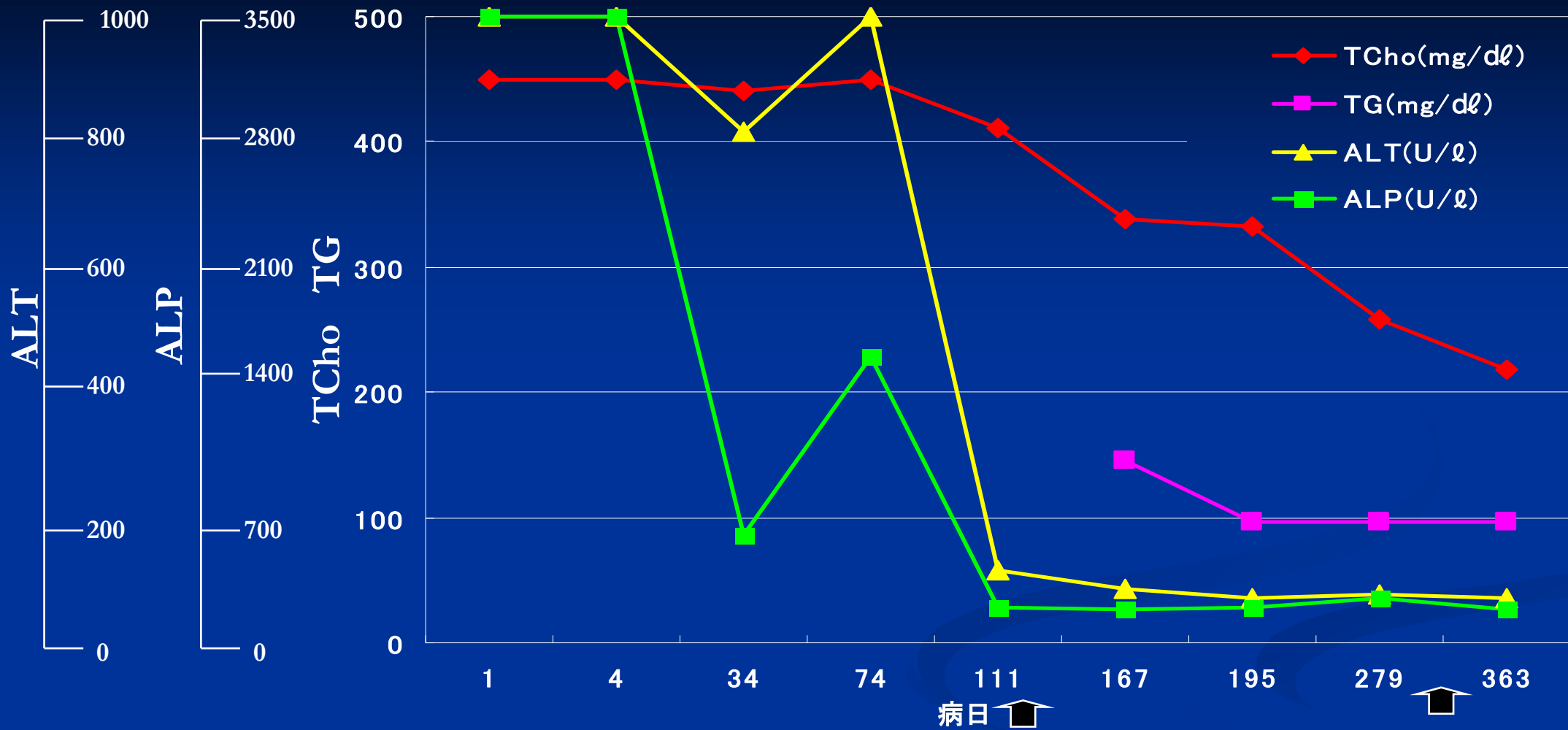
症例2



標準波形



# 症例2: 高コレステロール血症に対する治療およびその結果



プラバスタチン (mg/kg SID)



エラスターゼ (U/head BID)



ウルソ酸 (mg/kg BID)



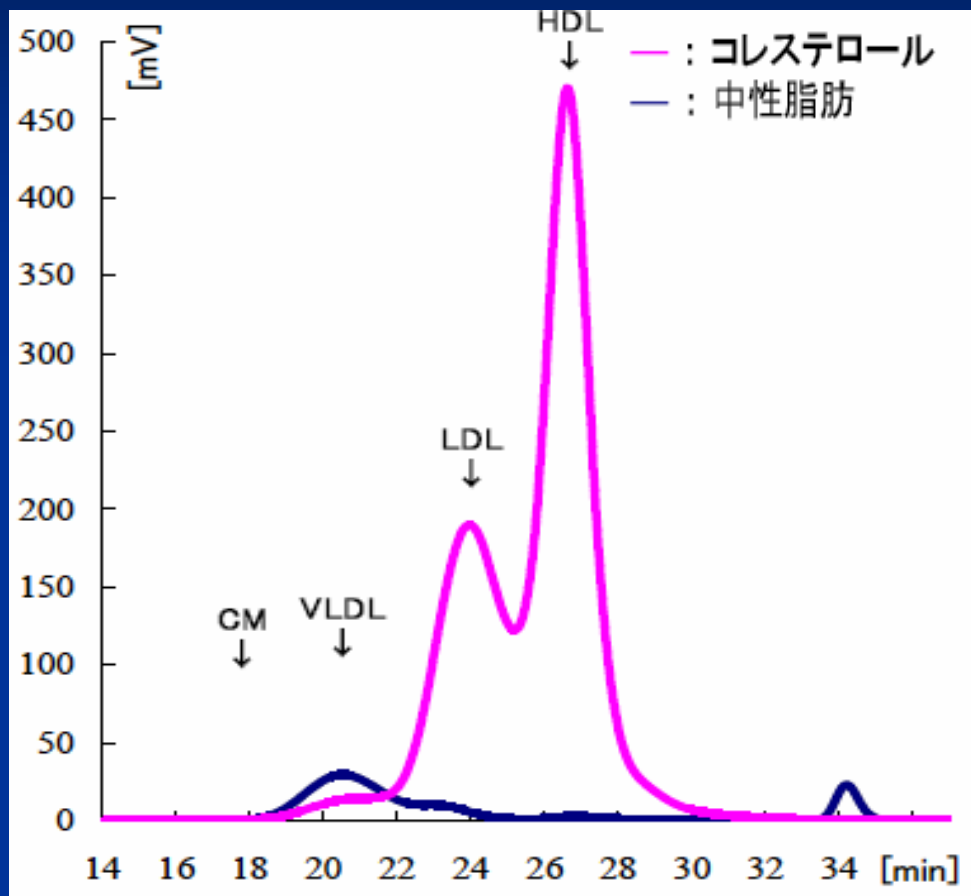
メロニダゾール (mg/kg BID)



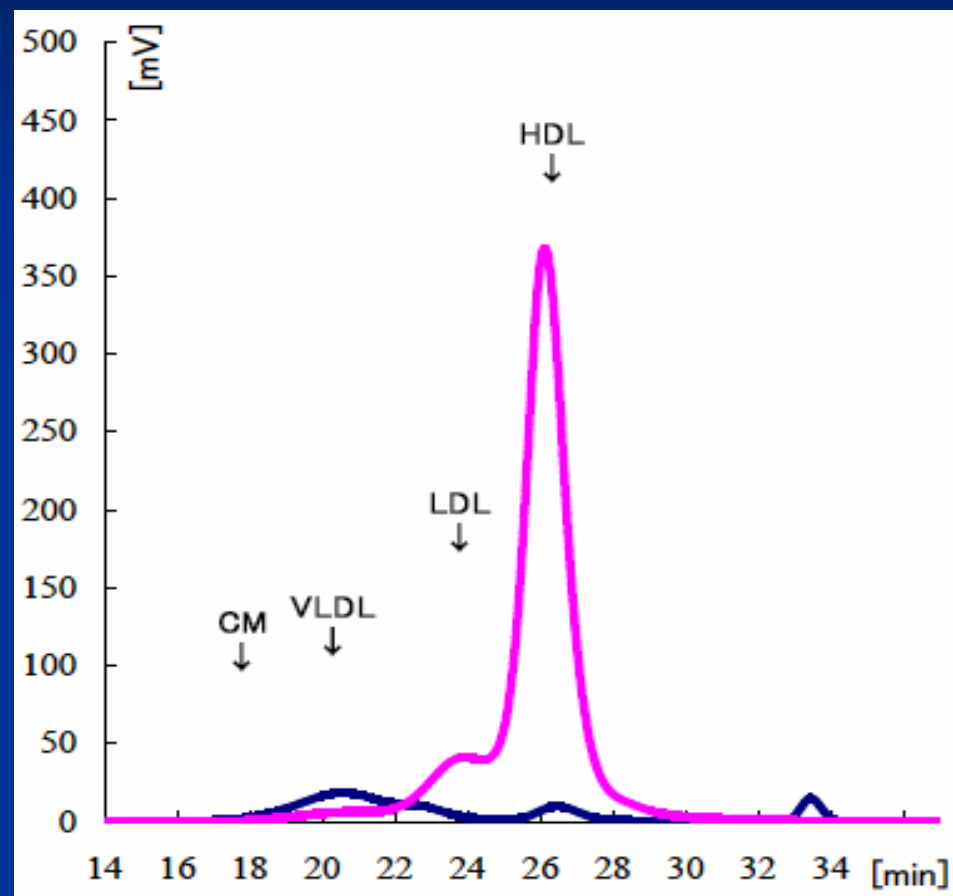
w/d



# 高コレステロール血症治療前後の血清脂質解析結果の比較



第111病日



第328病日

## まとめ

- ・血清脂質解析結果より、プラバスタチンの投与、食事療法(w/d)を治療として選択し、高TCho血症を改善できた。
- ・高TCho血症を改善できたプラバスタチンの投与量は過去の健常犬を用いて行った報告(～5.0mg/kg SID)と一致した。
- ・今回治療した2例は以前より高TCho血症が認められ、その後胆嚢粘液嚢腫あるいは胆管肝炎を発症し、回復後もTChoが高値で推移した。  
また高TCho血症治療開始以降、症例2については胆管肝炎の再発は認められない。

高TCho血症は肝疾患との間に関連性があり、高TCho血症の治療が肝疾患の治療管理に有効であることが示唆された。